磐城之民聲

發行日 一、十一、二十一日（毎月三回）
編輯兼發行印刷人 北川秀雄
發行所 福島縣平町南町七八番地
印刷所 平町白銀町十 丸山印刷所
廣告料 五號十二字詰 一回五十錢
一部十錢 一ヶ月二十錢 送料五厘

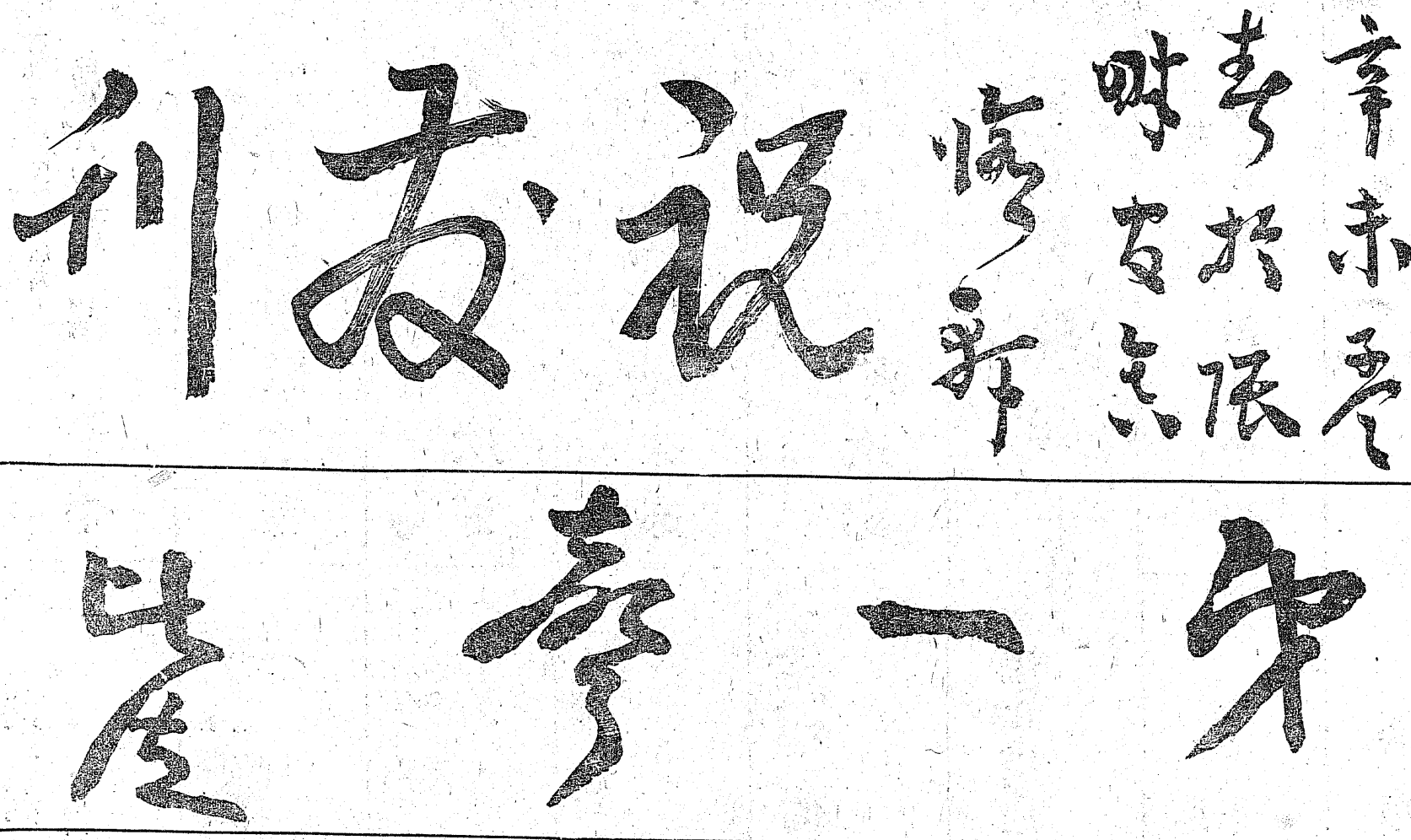
謹賀新年
祝發刊

年頭を迎へて
創刊の辭

主幹 北川秀雄

顧れば幾多の暗膽たる政治的經濟的將又思想的危機難局に直面しつゝも現内閣の施政方針宜しきを得昭和の聖代彌榮に齡を重ねて五星想茲に芽出度く六年の新春を迎へるに當りまして鄕土の先輩畏友同志諸賢此度『磐城之民聲』の題號により新聞發行する事になりました本紙は勿論民政思想を根源として發生せるものにしてその主義主張を確守すると共に世に問ふべく敢へて殉黨も亦辭せざる所、形小新聞なりといへ共意氣又燃ゆるものあり常に大衆の味方となり新聞の絶對オーソリテーたる自覺の下に即與論の尖端に立ちて不撓不屈あくまで政治經濟思想上の爲め勇往邁進せんとするものであります、冀くは諸賢に於かれましても本紙の意氣を壯とし今後層一層の御指導と御後援賜はらんこと。

昭和六年一月一日



町會議員
萩原義雄

湯本町
比佐昌平先生
後援會

縣會議員
若松美三

比佐代議士を迎ひて
石城民政院外團創立

華々しき第一聲を擧ぐ
民政黨倶樂部樓上に於て

豫て齋藤岳洞氏は輿論の趨勢に鑑み郡下民政黨の暗流に超然とし石城郡選出比佐代議士を中心として極力是を應援其の大成を期すると共に地方青年の政治的思想向上を目的として石城民政院外團創立を劃策中なりしが準備全く整ひ舊臘十二月九日午後五時より民政黨倶樂部樓上に於て比佐代議士始め若松縣會議員、萩原、吉田(寅)吉田(五)吉村、荒川各町會議員岡志會々長星野氏他黨幹部約四十名列席團員出席者六十余名盛大なる發會式を擧げしが定刻筆者の開會の辭及院外團創立經過の報告に次で吉田君決議文を朗讀し滿場異議なへ之を可決し佐藤君前日選擧決定せる團長以下の役員發表するや拍手に迎ひられ齋藤岳洞氏壇上に立ち團長就任の挨拶あり續いで幹事長藤太一郎、評議員長佐藤市助君、幹事安川源一君各々立ちて擧團殉黨の意氣燃ゆるものあるを述べ最後に比佐代議士滿歲歡呼裡に立ちて祝辭感謝の詞あり團長發聲の下に天皇皇后兩陛下を始め奉り立憲民政黨比佐代議士の滿歲を三唱し比佐代議士音頭にして石城民政院外團の滿歲を三唱し祝宴に移るや來賓團員交々立ちて五分間演說に氣勢を擧げ和氣靄々の中に十時散會せるも近來稀なる盛會にて同團の創立は沈滯せる石城政界に異狀なる刺激を與へ團今後の活動は刮目に價へすると共に各方面より極めて重大視され居る

尙當日發表せる決議文及役員氏名左の如し

決議文

一、石城民政院外團ハ石城郡選出衆議院議員比佐昌平先生ヲ中心トシ極力是ヲ應援シ其ノ大成ヲ期ス

一、石城民政院外團ハ擧團殉黨ヲ期ス

一、黨是ニ則リ其ノ實現ニ邁進セン事ヲ期ス

一、吾黨ノ集會及演說會ハ絕對擁護ヲ期ス

一、黨ノ攪亂者ハ徹底的ニ排擊ス

一、團員ハ相互ノ親睦結束ヲ計ルト共ニ團擴張セン事ヲ期ス

團長 齋藤角治
幹事長 藤太一郎
副幹事長 若松勇
常任幹事長 北川秀雄
仝 駒組芳雄
仝 山崎義雄
幹事 安川源市
仝 高畑德次郎
仝 藤社長治
仝 吉田太通夫
仝 福原勝之助
評議員長 佐藤市助
副評議員長 鈴木一
仝 門脇長次郎
評議員 鈴木勝治
仝 高橋德太郎
仝 山崎朝光

御挨拶

石城民政院外團々長 齋藤岳洞

私は元來平町出身でありますが一は是迄の商賣上一は天性よりして他鄕にあること二十ヶ年其間水戸に十五年を初めとし北は樺太より南は臺灣まで足跡並きものがありました今回故鄕平町に歸り先輩知友諸君に會ひ計らずも志す所同一なるに力を得常に憧憬盡粹する吾が大民政黨の一員として民政黨石城部會の爲地方青年の政治思想善導の爲茲に石城民政院外團を組織致した次第でありますが然る所團員各位の御推擧を得團長の重責を汚す事に相成りました誠に此光榮身に余るものと感謝に堪へません、私元來不適不才到底此器では有ませんが誠心誠意吾が立憲民政黨の爲め比佐代議士を中心としての石城民政部會の爲擧團殉黨の意氣を以て努力致したいと思ひます宜しく先輩諸賢の御指導御後援を賜り大過なきを期したいと思ひますから永久に御鞭達あらん事を切に〳〵希望して止まない次第であります。

謹賀新年

石城民政院外團顧問 町會議員 吉田五平

仝 顧團 町會議員 吉田寅之輔

仝 顧問 町會議員 吉村安次郎

仝 顧問 町會議員 荒川淺次郎

仝 顧問 前町會議員 阿部唯次郎

仝 顧問 同志會會長 星野甚七

仝 顧問 同志會顧問 大角金藏

仝 顧問 辯護士 眞木桓

河田鐵工場 河田梅吉 平町白銀町 電話三二九・七六二番

耳鼻咽喉科 合津醫院 合津重雄 平町田町 電話五五九番

佐藤齒科醫院 佐藤武之 平町四丁目 電話五〇八番

常磐屋時計店 松本元三郎 平町一丁目 電話三三九番

海陸物產乾物商 仙臺屋 關勝茂 平町長橋町 電話五四八番

湯本信用無盡株式會社 湯本町 電話四七番

植田万次郎 四倉町

面川亀之助 四倉町

發刊を祝す

辯護士 眞木 桓

新春劈頭、磐城之民聲新聞が、友人齋藤角治君の努力によつて茲に發刊さるゝに至つた事は吾々同志として深く歡びとするところである、顧みれば舊齋藤君主唱の下に同志諸君の肝入りにて、石城民政外院團の發會式を見るに至つたが、こゝ數旬ならずして又もや茲に一大機關紙を持つに至つた事は、石城憲政史の發達の上に、地方文化開發の上に一時期を画するものとして其の洋々たる前途を地方民諸君と共に大いに祝福せざるを得ない次第である

それ、民聲とは民の聲である、民の聲とは即ち輿論といふ事を意味してゐる、いかなる時代に於ても、輿論によつて支持せられない政治は亡び輿論に支持せらるゝ政治が榮ゆるのはこれ憲政の常道である、田中内閣は何が故に倒れたか、それは賢明なる讀者諸君の既に知悉せらるるところであらう、今日、濱口内閣が未曾有の難局に當しながら、或は金解禁の斷行に、或は産業の合理化に、我は經濟界の安定に、その他の社會的諸施設に、能く其の政策を實施しつゝあるのはこれ全く、輿論壓倒的支持を得て居るからにほかならない、國民の歡を歡とし、國民の憂を憂とする濱口其の人の人格が、深く〳〵國民の腦裡に浸潤してゐるからに他ならない。

かの一般的な、全國的な不人氣を、單なる雁ン首のすげ替へによつて、一時的に糊塗しやうとする某黨の如き態度を以てしては、今日の政治意識の發達せる國民を欺く事は最早出來ないのである、

正義と民聲、即ち民衆の輿論が、今日の、また今後の政治の指導原理となるであらう事は云ふを俟たないといろである、かゝる決意と意氣とを以て『磐城之民聲』も發刊されたものであらうと吾人はひそかに思ふものである、

由來本縣は憲政發祥の地として、我等の偉大なる先輩、河野磐洲翁を生み、夙に政爭の激しい地方として知られて居るが、就中石城の地は政爭激甚を以て有名である、それ故平町を中心とするこの地方民は、本縣他地方人士に比して幾多の政治的訓練に富み、遙かに高度の政治的意識を有して居るものと見なければならない、そはこの地方人士が如何なる金權にも媚びず、常に正義を味方とし、任俠的態度を以て身を處して來たことに見ても證する事が時未だ無名の一青年に過ぎざりし比佐君に味方して、我が石城人が如何にかの財閥の巨頭として、當時與黨たる政友會の下に立つた星一氏を向ふに廻ばして能く闘ひ拔いたかを、骨を削りて肉を殺ぐが如き、血みどろな幾旬かの後、如何に完全に彼等を粉碎し盡くしたかを、これは平町を中心とする、石城地方の人士が、如何に正義感に富み、任俠的であるかを雄辯に物語るものであつて、また吾々のひそかに誇とするところである、而して當時の無名の一青年は、今や代議士比佐となつてゐる、我々はかゝる同志として、比佐君を初め、萩原等々の多士齊々の諸君を有してゐるばかりでなく、今亦齋藤君の如き、經驗に富み、器量大なる才幹を加へ、同君の努力によつて『磐城之民聲』の創刊を見るに至つたことは同志としてばかりでなく一平町民として、石城人として欣幸に堪へないところである、

今や、我が石城地方には小名濱港の修築を初めとして、重大なる幾多の懸案が山積してゐる、かゝる時期に際會して、我々が如何なる地方的な利害の代表者を持ち、如何なる政治的指導者を持つべきかは、地方人士諸君と共に深く〳〵考へねばならぬ所である、圓熟せる常識と豊富なる經驗に富める老壯年同志諸賢、鄭重なる意氣と正義感に燃える青年同志諸君、今や磐城之民聲が眞價を世に問ふべく、第一聲をあぐるに當り絶大なる御指導と御後援あらんことを、齋藤君の友人として又同志の一人として切望する次第である

蒼卒の間にふでを執り、文意に滿たない点多いが敢て茲に一言する所以は、昭和六年新春の初光を浴びてこゝ平陽の地に孤々の聲を擧げた『磐城之民聲新聞』の前途を祝福せんとする微意に他ならない。

發刊を祝す

町會議員 磐雪會長 吉田寅之輔

磐城之民聲』を發刊せらる、其意氣、其抱負、蓋し時世の要求に他ならざるべく洵に慶賀に堪えざるなり『磐城之民聲』の第一切は恐く操觚界の一大センセーションならん、余は岳洞君の竹馬の友として、亦同志として創刊に際し切に望むは一意不屈不撓の精神を以て、策戰の第一線に猛闘せられ幾多の艱難幾多の誘惑が君を襲ふであらう時、毅然として所信を枉げず時代の尖端に立つて克く忍び志の、有る所意の向ふ所、斷然快刀亂麻を斷つの意氣を以て遂行するの慨なかるべからず、然りと雖も世に創擧は易く、守成は難しとする所、冀くば百パーセントの努力を以て其大使命達成に、萬遺憾なきを期せられんことを切望してやまざるなり

岳洞齋藤君『磐城之民聲』

看板製作 華泉堂 武花欽一 平町一丁目 川岸通り

平驛前 昭和タクシー 電話三四三番

平町新川町 西洋支那御料理 平樂亭 電話二九六番

銅工 田中宣治 平町新川町 電話五六七番

平町南町 鮮魚御料理仕出し 魚敬 電六一七

海産物鮮魚商 大堀松吉 平町三丁目横丁 電話二七五番

中華廣東御料理 華香亭 平町南町 電二九二

RESTAURAN サロン 平町田町●電352

（新築落成） コサック萬年筆 蓄音器レコード 天地堂 平町三丁目

平驛前 西洋御料理 カフエーラヒタ 電話六二〇番

平ステイション前 西洋御料理 カフエーステージ 電話二九八番

平町鎌田遊廓組合

平町土橋 一床 飯塚信市郎

平町紺屋町（元警察署前） 飯塚理髮店 飯塚春雄

平町二丁目 蒲鉾仕出製造し節 藤市 電三〇五

米菓製造卸商 牛久菓子店 平町紺屋町

カフエーバツカス 平町三丁目横丁

清光堂 清水屋書店 平町二丁目 電話一三一番

謹賀新年

平町々會議員（不順）

佐々木龍若
井上茂作
關内正一
國府田直良
大森勇
柳下元吉
野崎滿藏
高橋亀松
佐藤岩次郎
馬目稚治
馬目武之助
荒川恒次郎
花澤兎五六
櫻井清
氷山富廣
青沼鋒太郎
武田元之助
根本品藏
綠川喜三郎
鈴木光吉
石山治三郎
猪狩庄平
千葉彦治
坂本隆藏
齋藤敏實

四倉町町長 新妻盛

町會議員 金成岩吉 四倉町

町會議員 長谷川西次郎 四倉町

町會議員 小港宗吉 四倉町

聚樂館主 飯田近治

平魚市場 松浦章

大野村長 中野幸平

同志會顧問 前澤文太郎 平町才槌小路

高橋利太郎 平町南町

比佐信太郎 平町一丁目

木田剛 大野村

好間村民政同志會

山下三次 平町田町

やぶ洋食部 平町田町 電話四番

魚清 石井清吉 豊間村

トモヱヤ洋服店 店主 花井喜重 平町一丁目…川岸通り

永澤西洋洗濯所 永波儀一 平町一丁目…川岸通り

平町旅館業組合

牛肉豚肉 大塚駒太郎 平町六丁目 電話五三九番

山崎合名會社 電話十番

堀江工業株式會社 江口忠一

平町三業保健組合

神谷齒科醫院 神谷辰夫 平町古鍛治町

新案特許第二三二一〇号 小鍛治式德用ムシカマド製造販賣本舗 販賣主任 小鍛治永佑 平町三丁目 電一三五番

丹野齒科醫院 日本齒科醫學士 丹野淳 平町白銀町（加藤營業所隣）

御料理 都家 中家 こもの家 丸家 林家 柳家 都家支店

合資會社 常磐葬儀社 平町紺屋町

諸機械 チルド車輪製作業 武藏鐵工場 遠山稻吉 平町才槌小路十九番地 電話五一四番

美術石版活版諸印刷 丸山印刷所 平町白銀町……電話五七四番

謹賀新年
祝發刊

胃腸良藥 健康代理店
大平屋藥舗
平町一町目二十番地 電話六四二番

木村外科醫院
院長 木村淳
平町六町目（橋際） 電話三〇九番

海産物鮮魚仕出し
魚豊商店
平町大工町 電話四九七番

十錢屋陶器店
森田 平町一町目

三井自動車部
平町二丁目 電話六八五番

お壽し と
江戸前小料理
杵壽し
平町三丁目 電話六七九番

か ま ぼ こ 仕 出 し
藤寅
平町一丁目 電話一四一番

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八八番

茗荷屋漬物店
平町土橋 電話一〇六番

谷口商店
平町新川町 電話四六七番

松崎自動車部
平町一町目 電話四四九番

平町西洋料理屋組合

平町藝妓置屋組合

平町料理屋組合

西洋御料理
カフエー花月
本店三町目川岸 支店三町目横丁

赤津人力車駐場
平町一丁目横丁 電話二六三番

國産文具ノ權威
ライトインキ魁文堂
電話三一三番

洋菓子パン製造
久保田パン店
電話三八三番

西洋御料理
季節鍋料理
カフエー松ケ岡
松ケ岡公園口

海陸物産、乾物商
北海屋
皆川新一
平町二町目 電話三八八番

古河炭礦購賣會委托
小田炭礦販賣鮮ヘ部
海陸物産商
安孫子才三郎
平町六町目 電話五五一番

ト印
魚問屋
平町四町目 電話五二八番

牛肉豚肉
大塚肉店
平停車場通り 電話六八七番

牛豚肉商
深谷亥八
平驛前通り 電話五二八番

釜屋商店
平五丁目 電話九九九番

喪中ニツキ年賀欠禮申上候
市原卯太郎
平町田町

謹賀新年

小松茂 平町南町
水野壽雄 平町北白銀町
吉田弘 平町田町
横山忠二 平町田町
猪狩彌作 平町新町
井上末吉 平町胡摩澤
高子教藏 平町長橋町
廣木正一 平町搔槌小路
近藤繁雄 平町南町
村上榮 平町仲町
佐藤武雄 平町仲町
鈴木盛之助 平町一丁目
小野鶴松 平町搔槌小路

遠藤柳之助 平町長橋町
木田藤次郎 平町城山
寺門捨次郎 平町鎌田
和田庄作 平町八幡小路
樫村三男吉 平町北目町

喪中ニツキ年賀ノ禮欠禮申上候
鷺清昇 植田町

湯本町
比佐昌平先生
後援會

會長 小泉三代喜
副會長 石川德壽
會計 若松忠兵工
仝 後藤利吉郎
顧問 吉田宗雄
上川才松
小野春之助
若松利惣治
木村德三郎
矢吹佐市
鯨岡愿道
高木芳太郎
志尾崎太八
江尻松吉
川崎善彌
井坂千代松
大貫經次
渡邊長作
片岡謙三郎
益山弟吉郎
坂本佐內
渡邊勇太郎
若松孝平
常任幹事長 比佐賢司
常任幹事 佐藤清兵工
佐藤利平
小井戸大次
山本春藏
坂本文治
小久眞太郎
高橋勇五郎
宮本利一郎
熊井作馬
松繁庄一
比佐源造
矢吹莊司
渡邊渡

外ニ幹事二百四十五名
會員二千四百五十名

石城民政院外團
會長 齋藤岳洞
幹事長 藤太一郎
副幹事長 若松勇
常任幹事 北川秀雄
駒但芳雄
山崎義德
高畑麻次郎
福原勝之助
吉田太通男
藤社長治
安川源市
佐藤市助
評議員長 門脇長次郎
副評議員長 鈴木一
評議員 山崎朝光
鈴木勝治
高橋德太郎
（不順）
會員 花井喜重
大沼勝治
大峯政雄
山崎義照
浦邊松之助
押切良雄
松本榮孝
安川三郎
永澤正雄
遠藤金作
比佐守一
武藤政雄
富樫勝秀
金成嘉吉
小野建之助
樋口重郎
小野曉
松永忍海
小菅光一郎
菅野彌助
須藤熊雄
小野福次郎
岸清吉
佐々木勝保
安達末吉
鈴木勝治
下山田利巧
川俣秀雄
馬上房志
坂本留藏
上佐兼吉
星小次郎
齋藤惣太郎
小野八百吉
石川信一
遠藤忠工
大峰吉久
大瀧馨
增尾甚七
横田十五
渡邊金之助
片岡德十郎
米倉判二

「編輯了へて」

生れ出づる惱の一つでせう此處に旬筆者は文字通り目まぐるしい多忙の中にやつと編輯了へて今靜かに越えて來た道を振返つた時余りに筆者の力の足らぬのをしみ〴〵と慚愧に堪へない、何分創刊號ではあり思ふことのみ多くしてあれもこれもと考へるのみで筆の運びの遲々たるを筆者自身どんなに焦つたにとか、大方讀者諸賢の不滿はさることながら次号よりは精々勉强して內容の充實を計り少しでも御期待に添ふ樣努力精進致す考へですから孤立無援漸く操孤界に芽生ひを双子葉なる本紙を御指導と御後援により大なる充實したものに育くみ下さいます樣切に〳〵御願ひ致します

一九三〇年の新語エロ、グロ、尖端百パーセントナンセンス等々總べて一九三〇年の逝くと共に歲末行進曲をかなでつゝ慌しく流されて行く宛も洗ひ淸めらるゝ如く果して一九三一年に生るゝものは何か來るべき歲こそ吾々の戰ふべき秋であるでば皆樣の御健康と共に皆樣が本紙を手に取る頃にはハツピイな新年を迎へらる樣祈りつゝ筆を置きます。

「編者記」

謹賀新年

榮商事

磐城之民聲新聞社
社長 齋藤角治
主幹 北川秀雄
藤太一郎
事務所 平町南町七十八番地
電話 二〇四番